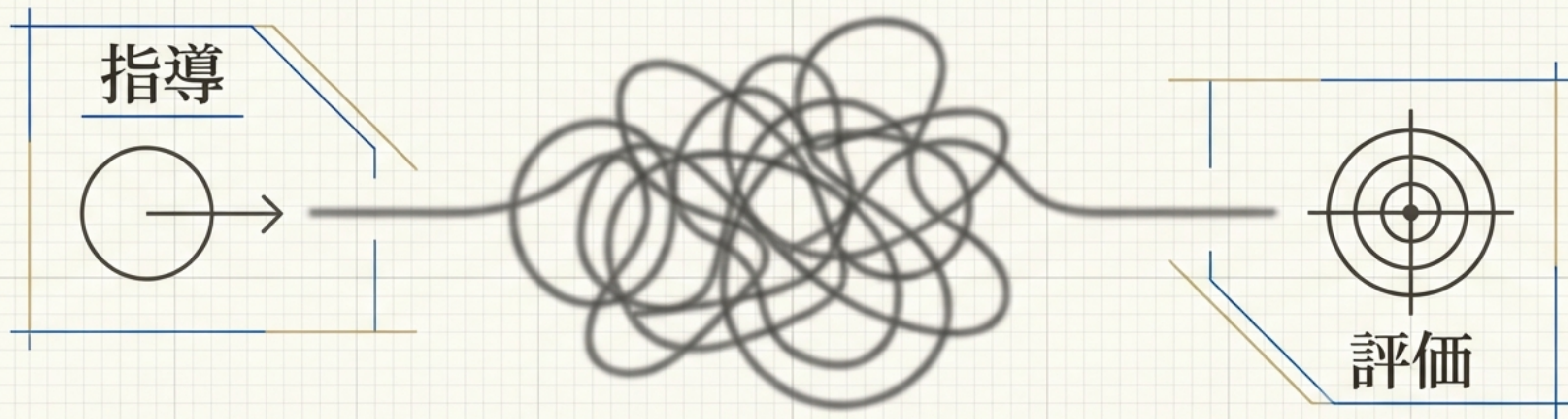


学習目標の分析とデザイン： 概念から実践へのガイド

教育効果を最大化する設計の科学

なぜ、目標を分析する必要があるのか？

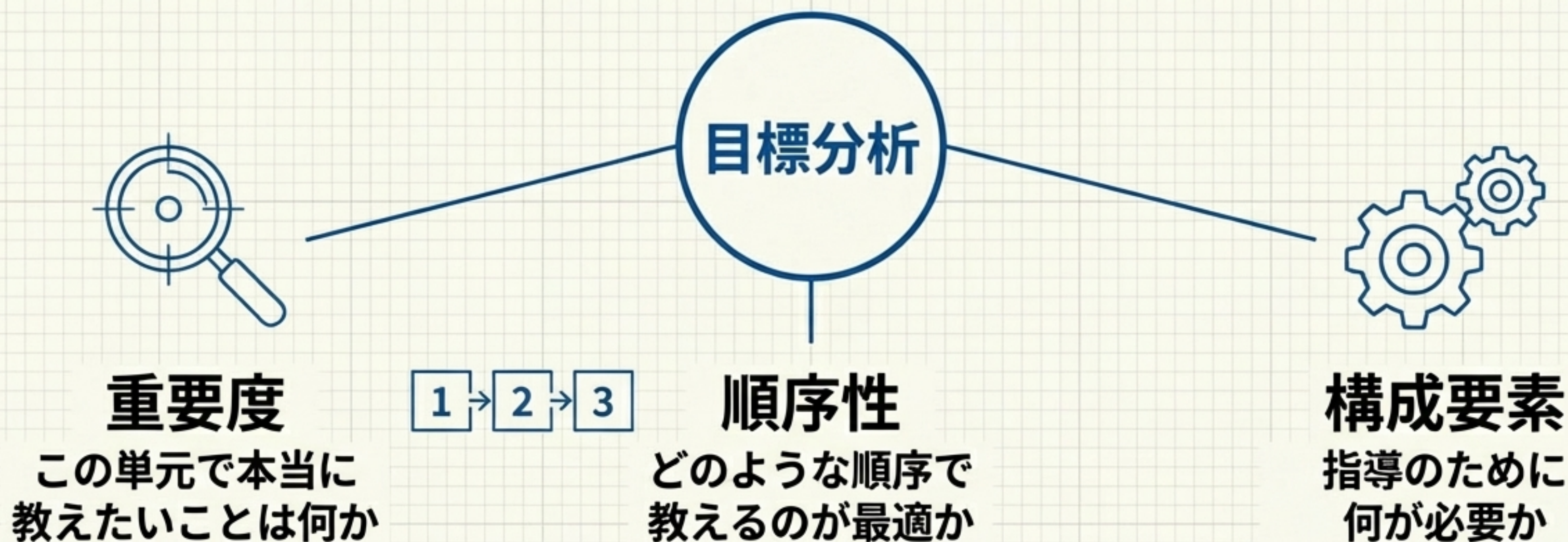


目標が曖昧では、指導も評価もできない。

漠然とした目標は、焦点の定まらない指導と、意味のない評価につながります。
効果的な学習体験を設計するための第一歩は、この根本的な課題を解決することです。

その解決策が「目標分析」である

目標分析とは「目標の構造をとらえること」。

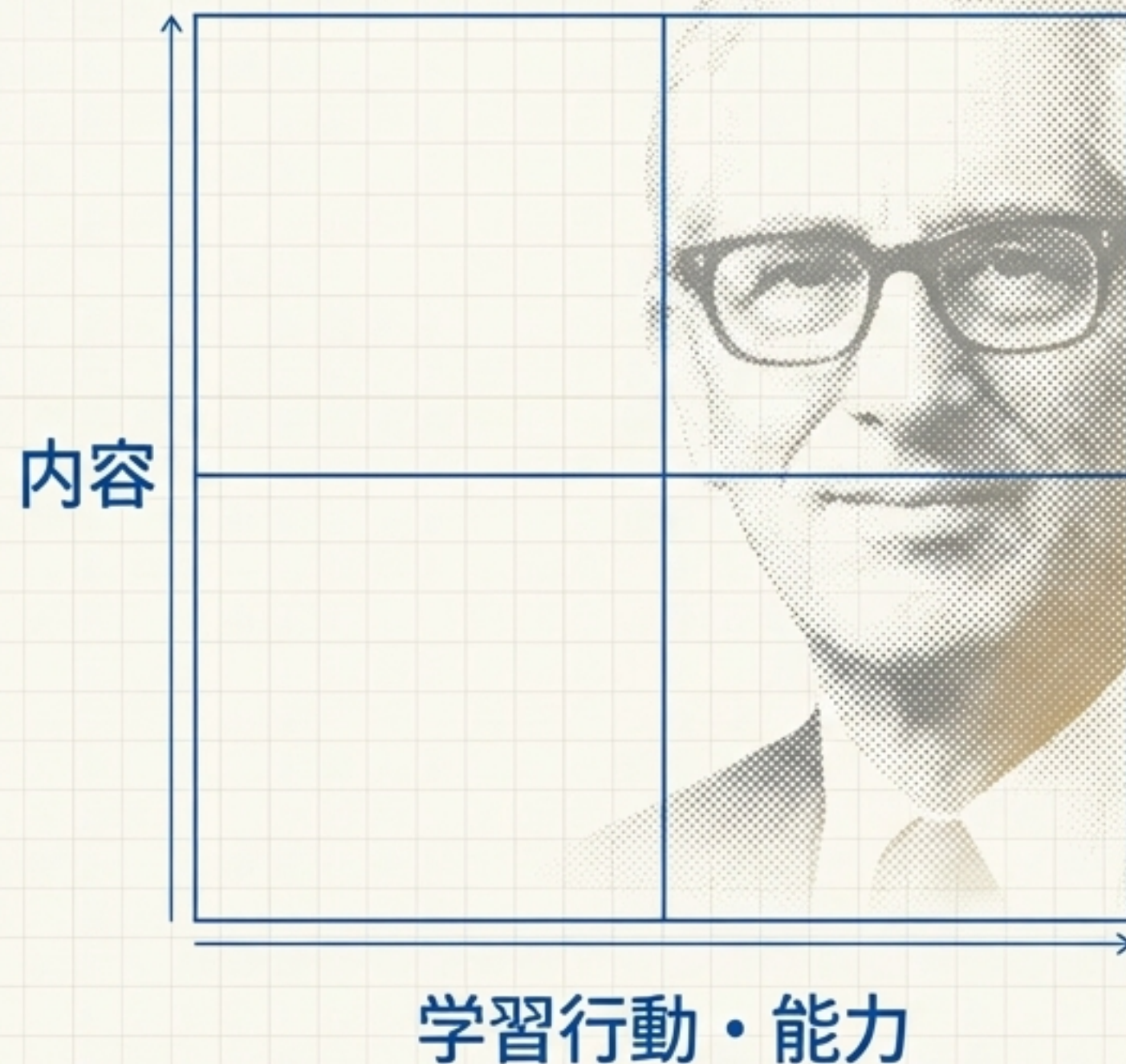


目標の構造化によって、学習の自然な流れが生まれる。

学習を構造化するための強力なツール

日本で目標分析が本格的に行われるようになったのは、B.S.ブルームの「教育目標の分類学」の研究以降です。これは、教育目標を構造化し、体系的に整理するための画期的な手法でした。

ブルームの手法は、学習の「内容」と「学習行動・能力」を軸にした2次元のマトリックスで目標を整理します。

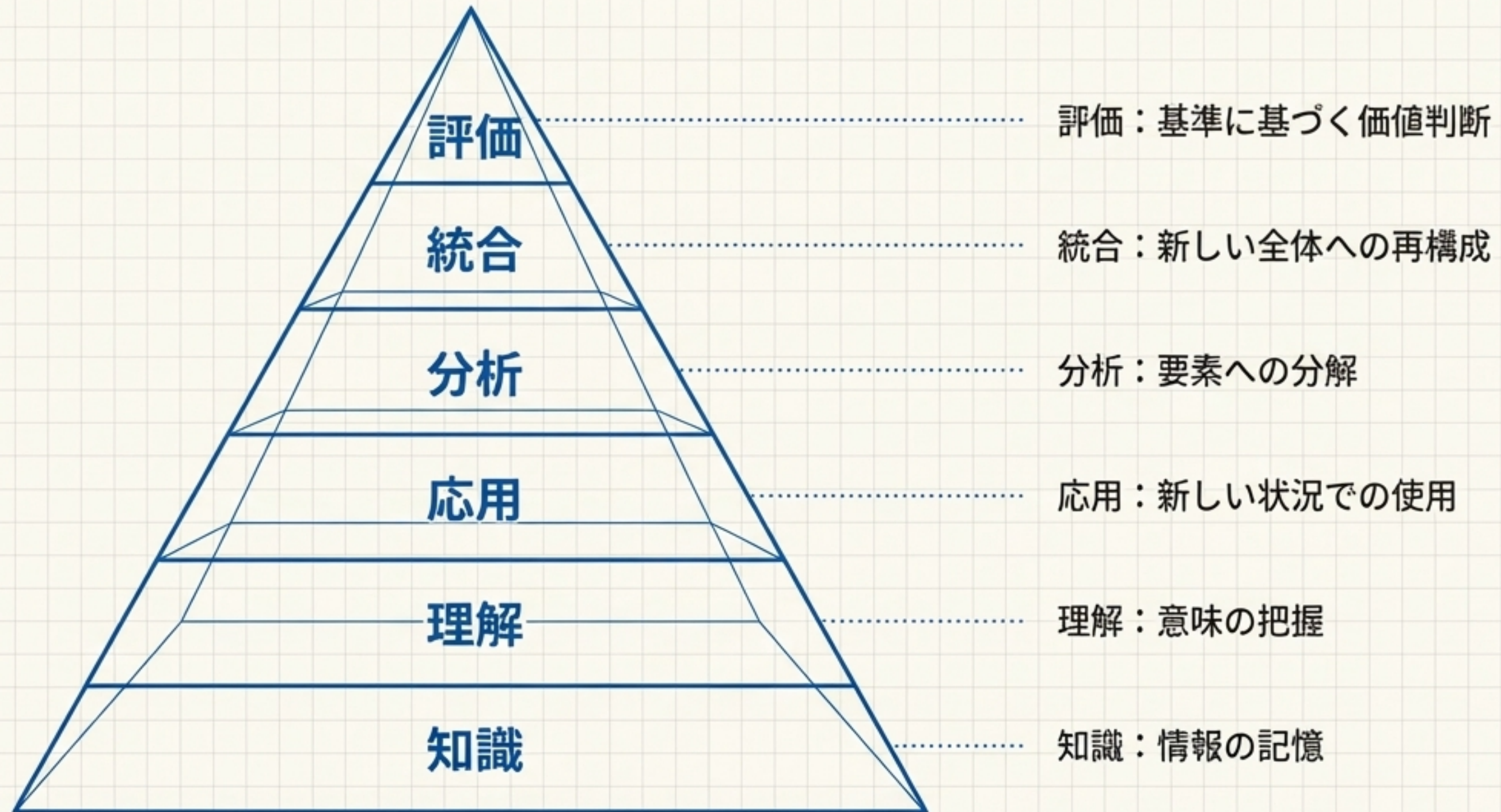


ブルームの教育目標分類学：3つの領域

認知的領域	情意的領域	心的運動的領域
評価	個性化	自然化
統合	組織化	分節化
分析	価値づけ	精密化
応用	反応	巧妙化
理解	受け入れ	模倣
知識		

詳細：認知的領域の段階性

最も広く活用される認知的領域は、単純な記憶から複雑な判断へと至る思考の段階性を示しています。



なぜ分類学が重要なのか？



教師にとってのメリット

- あいまいになりがちな授業の目標を明確化できる。
- その授業の中で何を教えればよいのかが明確に意識される。

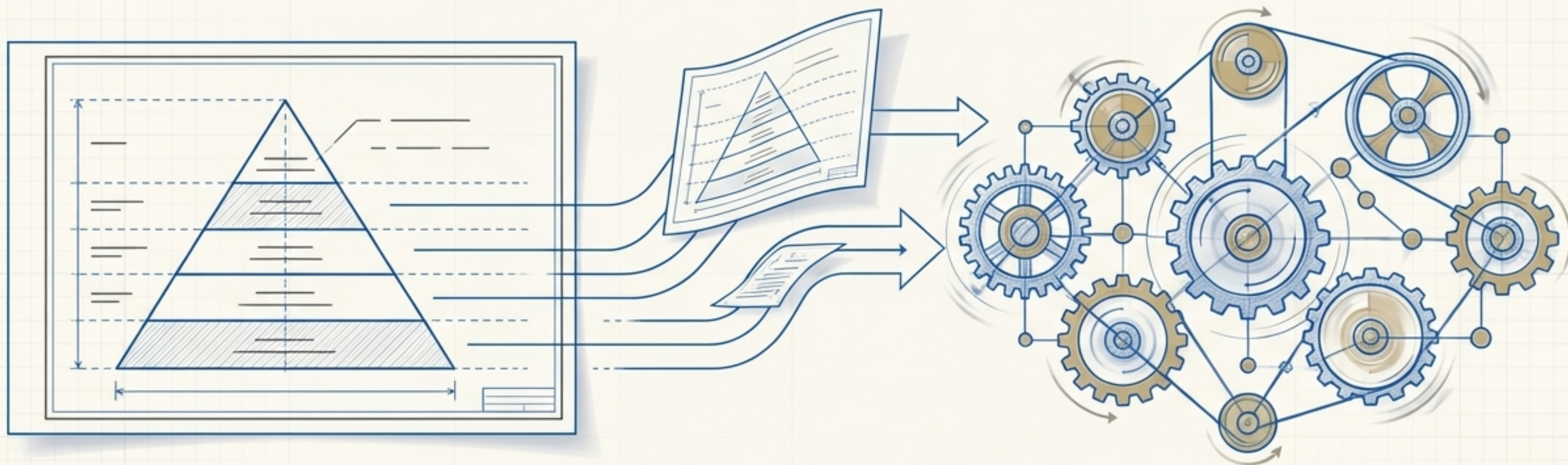


評価にとってのメリット

- 子供の学習の評価観点を明確化できる。
- 印象論ではなく、明確な観点を持って評価を行える。

It answers: “何を教えるべきか？”そして「学習したことをどう確認するか？”

構造からプロセスへ：インストラクショナルデザイン



目標の構造を理解したら、次はその目標を達成するための「学習システム」全体を設計します。

1970年代に盛んになった「システムズ・アプローチ」は、教授学習過程を一つのシステムとして捉え、学習目標へ効率的に到達させるための手法です。この考え方がインストラクショナルデザインの基礎となります。

ADDIEモデル：教育設計の普遍的なプロセス

ADDIEモデルは、目標を達成するために必要な学習活動を5つのフェーズで定義する、代表的なIDプロセスモデルです。

これは、教育を設計・開発・改善し続けるための、循環的なブループリントです。

Analysis (分析)

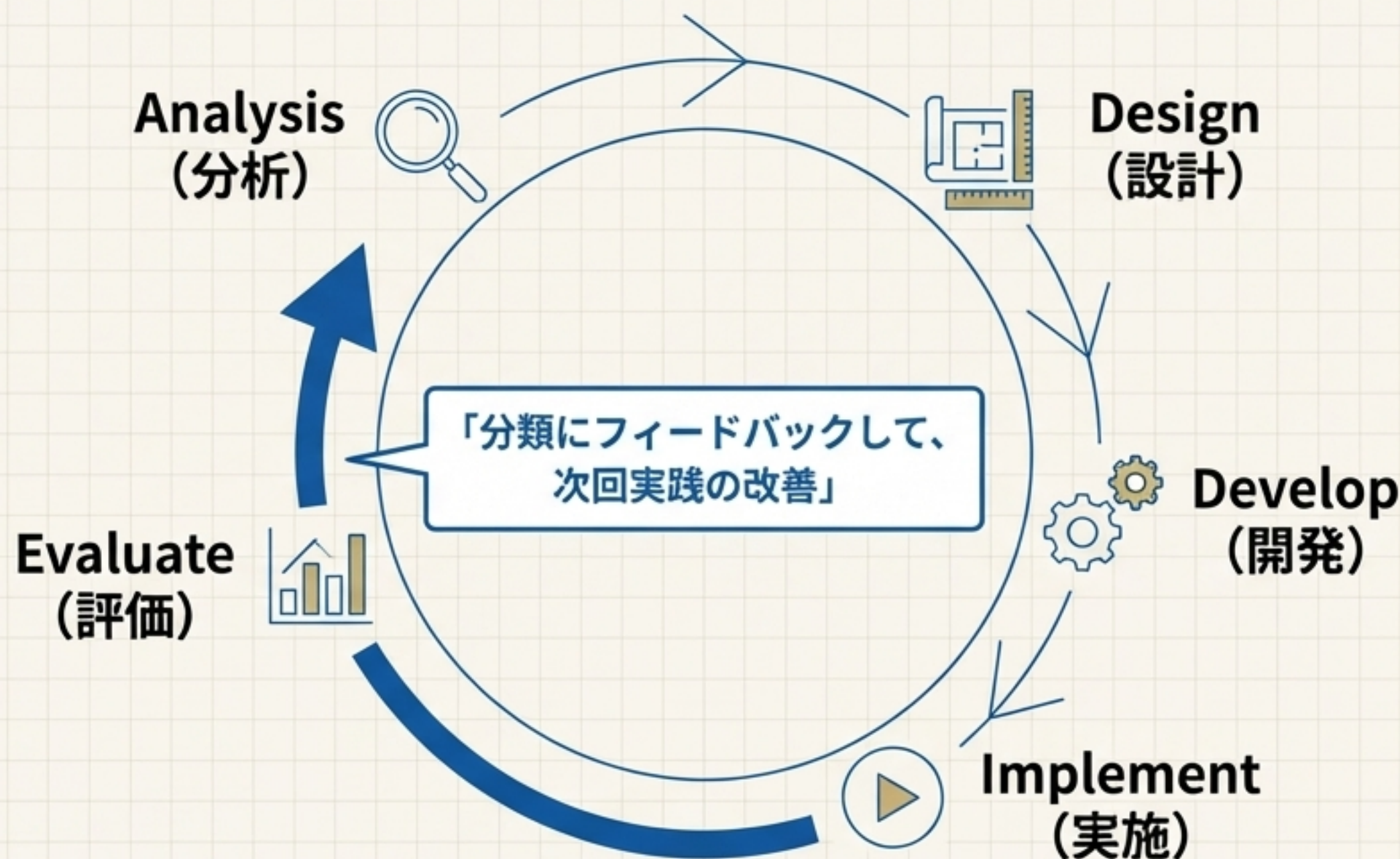
Design (設計)

Develop (開発)

Implement (実施)

Evaluate (評価)

学習を改善し続けるサイクル



このモデルのポイントは、評価フェーズから分析フェーズへフィードバックを行い、学習活動を常に改善するようプロセスが循環している点です。

フェーズ 1 & 2：分析・設計

分析 (Analysis)

Goal: 教育ニーズを分析する

- 学習の目標を明確にする
(e.g., 「○○を使って▲▲ができるようになる」)
- 教育対象を設定する
- 目標達成を測る評価基準を設定する

設計 (Design)

Goal: カリキュラムの青写真を作成する

- 学習期間を設定する
- 目標に合わせた具体的な教授方略を決定する

フェーズ 3 & 4：開発・実施

開発 (Development)

Goal: 学習教材を具体的に作成する

- **Key Action:** 分析・設計フェーズで立てた計画に基づいて、教材（テキスト、演習、メディアなど）を作成する。

実施 (Implementation)

Goal: 計画に沿って授業や研修を行う

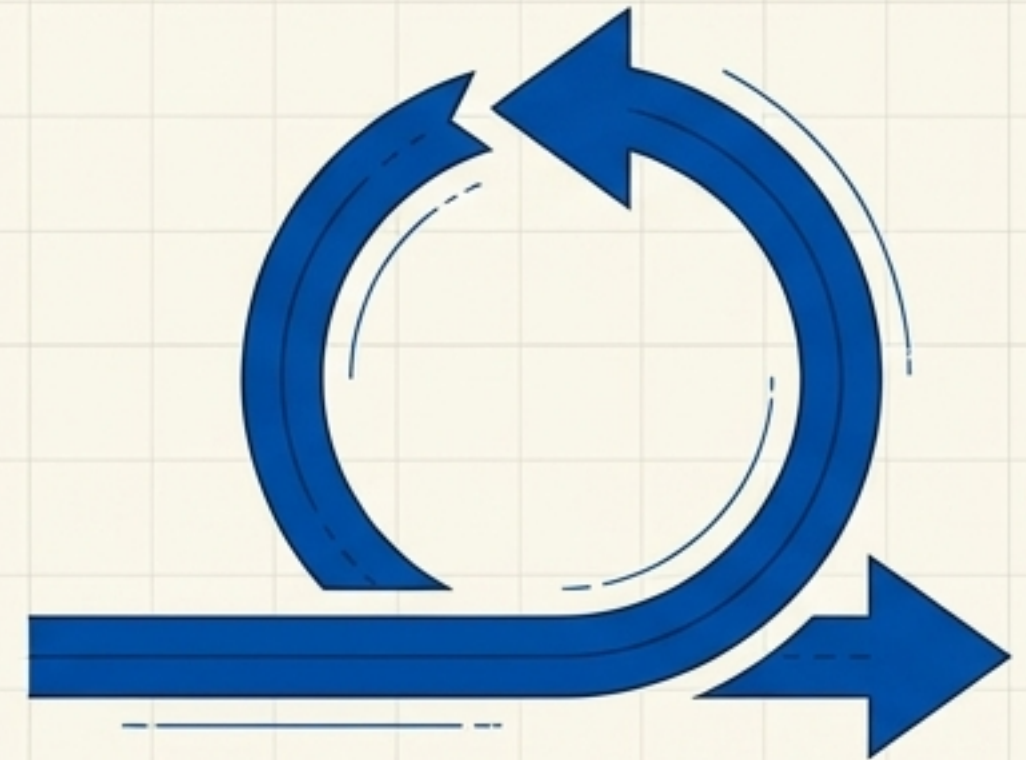
- **Key Action:** 開発した教材と設計した学習環境を用いて、実際に学習活動を実施する。

フェーズ5：評価とフィードバック

学習者が設定した目標をクリアしているかを測定する。

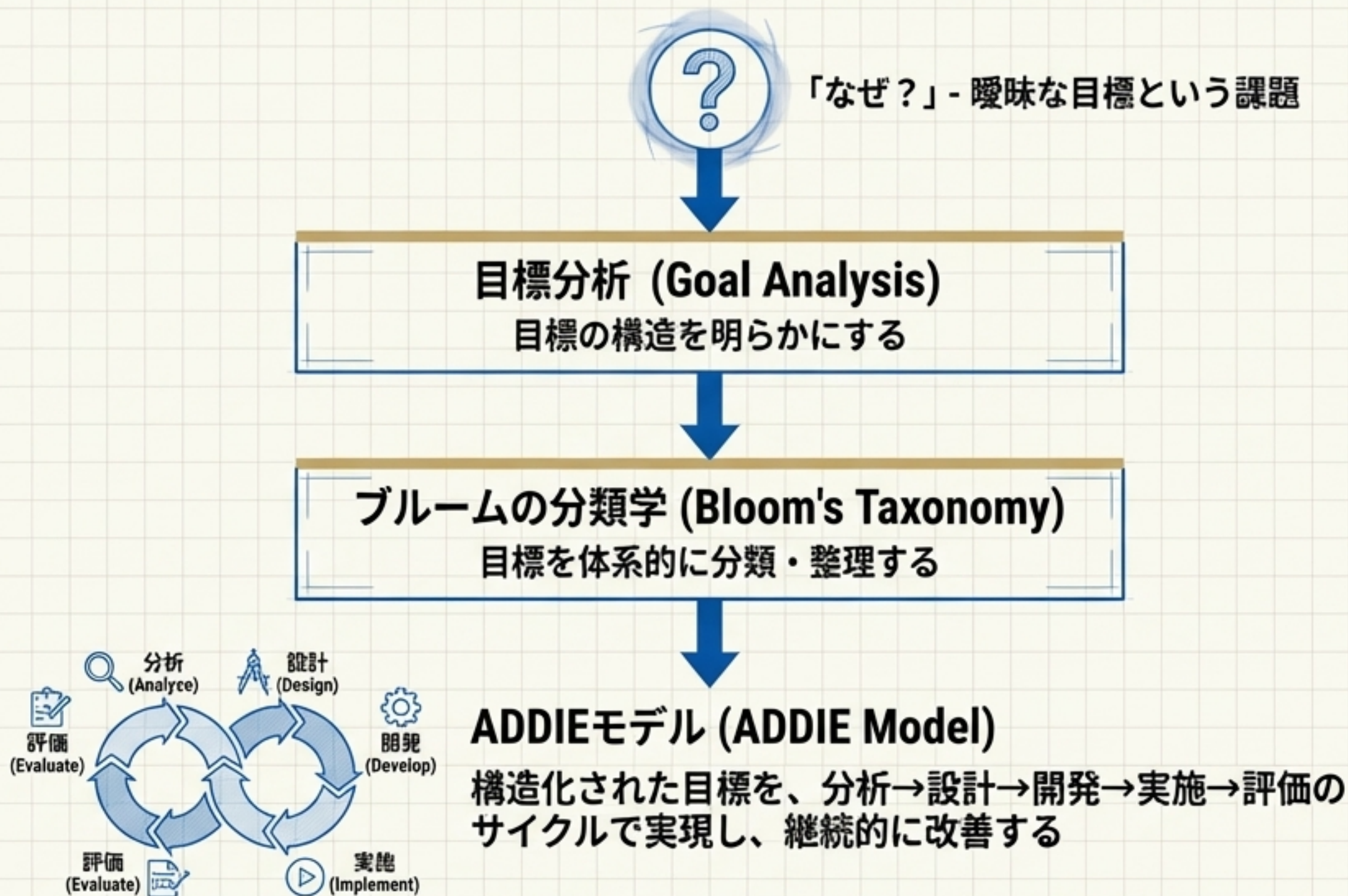
The Feedback Loop

- 目標が達成出来ていない場合は、カリキュラム全体を見直す。
- 見直しの対象は、目標、教授方略だけでなく、期間や対象まで含む。



見直した結果は分析フェーズにフィードバックし、学習内容を改善していくサイクルを実現する。これがADDIEモデルの心臓部です。

全てをつなぐ：意図的な学習設計の全体像



効果的な学習は、この一貫したプロセスから生まれる。

優れた学習体験は、
偶然生まれるのではない。
意図的に設計されるものである。

Based on "第7講 学習目標の分析と学習目標のデザイン"